

# 令和7年度 予算編成方針

## I 国の動向

国は「経済財政運営と改革の基本方針2024」において、現在、デフレから完全に脱却し、成長型の経済を実現させる千載一遇の歴史的チャンスを迎えているものの、現状、物価上昇が賃金上昇を上回る中で、消費は力強さを欠いていると述べ、持続的・構造的賃上げの実現に向けて取り組むとしている。

また、地方行財政基盤の強化について、人口減少や少子高齢化が急速に進行する中でも、活力ある持続可能な地域社会を実現するためには、経済の好循環を地域の隅々まで行き渡らせるとともに、地域ごとに異なる将来の人口動態を念頭に、地方公共団体が人手不足やインフラ老朽化等の資源制約に対応し、持続可能な形で行政サービスを提供していくことが重要であるとしており、地方の安定的な財政運営に必要な一般財源の総額については、2024年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保して、地域における賃金と物価の好循環の実現を支える地方行財政基盤の持続性を確保・強化としている。

令和7年度においては、これら国の経済財政運営の動向を注視し、情報収集に努め、適宜適切に対応していく必要がある。

## II 本市の財政状況及び見通し

### (1) 令和5年度一般会計決算状況

令和5年度一般会計の決算額は、前年度決算に比べ、歳入が6億9,698万円減の199億3,826万円、歳出が4億8,042万円減の186億3,609万円となり、歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支は10億3,208万円の黒字となっている。

地方債残高は、新規借入額を元金返済額以下に抑えるなどの発行抑制効果により、令和5年度末残高はピーク時である平成29年度末残高と比較し33.8億円減少し、前年度比7.8億円減の132億5,326万円となり、定額運用基金を除く基金残高については、必要となる財源調整や特定目的のために8.3億円を取り崩したが、決算剰余金の積み立てや将来の事業執行に必要な財源として12.8億円を積み立て、その結果、前年度比4.4億円増の103億5,125万円となった。

また、財政健全化法に基づく健全化判断比率の各指標においては、実質公債費比率は前年度から0.1ポイント増の8.9%となったが、将来負担比率は充当可能財源等が将来負担額を上回っていることから算定されておらず、実質赤字比率及び連結実質赤字比率も含め、いずれも財政健全化判断基準を下回っていることから、現在の状況としては健全な財政運営を維持することができている。

一方で、財政構造の弾力性を判断する経常収支比率は、扶助費や補助費等の増加に伴う経常的経費の上昇で前年度比0.9ポイント増の92.0%となり、今後も大規模事業の実施に伴う地方債元利償還金の増加などで更なる比率の上昇が想定されることから、行財政改革を推進し財政硬直化を解消することが財政健全化に向けた重要な課題となっている。

## (2) 令和7年度財政見通し

令和7年度予算における歳入一般財源については、市税において、人口減少の影響はあるものの米価格の上昇や企業収益の動向等を見越し、前年度比0.49%増の31.0億円を見込むとともに、地方交付税についても前年度比5.07%増の59.9億円と見込んでいる。これらに地方譲与税や臨時財政対策債等を加え、歳入一般財源として、前年度より3.5億円増額となる105.8億円を見込んでいる。

歳入一般財源については、安定的な財政運営を図るため、本来であれば經常経費及び臨時経費に係る一般財源額を歳入一般財源額の105.8億円と同額とすべきだが、經常経費に係る一般財源額だけで102.0億円を見込んでおり、扶助費の増や物価高騰の影響なども考慮すると、臨時経費に充当できる一般財源はほとんどない状況となっている。令和7年度は新庁舎建設やふれあいセンター改修などの大規模事業が本格化することもあり、例年同様の厳しい予算編成が見込まれることから、過去の繰入額の状況や歳出の増額を考慮し、やむなく、歳入一般財源に対し財政調整基金から例年と同額程度の繰入れが必要となると想定している。

## (3) 今後の中期的な財政見通し

本市の財政状況は、經常収支比率が前年度より0.9ポイント増の92.0%となり、財政構造の弾力性が失われつつあるなど、決して財政に余力がある状況ではない。

一般会計の将来推計としては、令和7年度市税収入は前年度より増額で見込むものの、今後は人口減等により減少することが予想され、大規模事業に伴う公債費や投資的経費の増加、扶助費・物件費の高まりなどにより、令和7年度以降の当初予算においても毎年度収支不足が見込まれるなど、厳しい財政状況が続く見通しとなっている。

今後、新庁舎建設や個別施設計画による長寿命化改修等の公共施設の老朽化対策、少子高齢化対策といった諸課題への財源を生み出すためには、職員一人ひとりが危機感をもって財政健全化に取り組む必要がある。

### Ⅲ 予算編成の基本方針

令和7年度は、「第2次総合振興計画」3年目に当たり、基本構想に掲げた基本理念（伊佐市市民憲章）及びまちづくりの将来像「笑顔あふれ 一人ひとりが 幸せ感じるまち」の実現に向け、取組を加速させるとともに市民生活に定着させていくことが必要である。

施策の推進に当たっては、少子高齢化、人口減少等を背景として増加していくことが予想される地域課題について、職員一人ひとりが現場の状況を把握し、課題を的確に捉え、知恵を絞り、効果的な施策を展開していくことが重要となってくる。

そのためには、本市が持続可能な行政運営を行っていくうえで、限られた財源を最適配分していく必要があることから、「Ⅰ 国の動向」における経済財政運営の動向を注視し、情報収集に努めるとともに、適時適切に対応していく必要がある。

加えて、「Ⅱ 本市の財政状況及び見通し」にあるとおり、新庁舎建設の本格的建設や各種物価高騰の影響により、過去最高の予算規模になることが予想されること、今後は公債費の増加が見込まれることなどから、歳出全般にわたり、最も効果的な事業（手段）となるよう、徹底して無駄を省き、既存事業の建設的な見直しを行い、事業に優先順位を付し、計画的に進めることも必要である。

このことを踏まえ、令和7年度当初予算は、次の3つの「基本原則」及び8つの「留意事項」に従って予算編成を進めることとする。

#### （1） 基本原則

##### ① 「第2次総合振興計画」の実行

「第2次総合振興計画」の6つの基本目標達成に向けて必要となる事業について、更に取り組を進めること。

##### ② 効果的な事業の推進等

各種事業は目的達成のための手段であることを改めて認識し、これまでの取組の課題等を踏まえ、より効果的、より効率的、より経済的な手段の検討を行い予算要求に反映すること。

##### ③ 組織横断的な事業の推進、連携の強化

同一目的の事業については、部署内のみの検討で終わることなく、関係する部署と連携を密にし、組織の枠を超えて一体的に事業を進めること。同様の手法による実施が可能な事業については、事業の整理統合に取り組むこと。

#### （2） 留意事項

##### ① 各種計画に則った事業の再考

様々な分野の各種計画に則って実施する事業であっても、事業内容や実施時期が妥当であるか、財源的に大きな負荷がかかる可能性がないかなどを再考し予算要求すること。

## **② 国、県の動向の把握と対応**

国、県の予算編成や地方財政対策の動向はもとより、各分野の政策の動向（例：持続的・構造的賃上げの実現、官民連携による投資の拡大、少子化対策・こども政策の新たなステージへの移行等）を注視し、その動向を的確に把握し、適切に対応すること。

## **③ 新たな取組の展開**

スクラップアンドビルドの視点を持ち、創意工夫のもと国県等の補助金やふるさと納税基金を活用した新規事業の企画を積極的に行い、予算要求の取組を促進すること。

## **④ 行財政改革、DXの推進等による市民の利便性向上**

既存事業の徹底した見直し、働き方改革や情報政策（DX）など、業務の効率化に努めるとともに、ICTの積極的な導入、活用により、各課が主体性をもって住民目線での利便性の向上を図ること。

## **⑤ 官民連携の推進及び歳入の確保**

連携協定による民間活力や、共助も含めた民間活力の活用の可能性についても考慮するとともに、ふるさと納税や企業版ふるさと納税の推進、普通財産の売却、収納率の向上等により、更なる歳入の確保に努めること。

## **⑥ SDGsに係る取組の推進**

「第2次総合振興計画」を推進することでSDGsの達成に向けた取組を推進することとしていることから、事業の実施において組織の枠を超えた連携や、市民、事業者等のステークホルダーとの連携を図り、SDGs達成のために今やるべきことを考える姿勢を職員一人ひとりが強く意識して事業の構築・検討に当たること。

## **⑦ 公共施設マネジメントの推進**

公共施設の改修等については、公共施設等総合管理計画及び個別施設計画に基づき、施設の劣化状況や重要度を考慮した上で予算要求をすること。

また、経常的に発生する維持管理経費が財政状況に与える影響を考慮し、集約化を中心とした再編の方向性を意識すること。

## **⑧ 事務事業評価による事業の見直し**

事務事業評価部会において効果検証等を行った事業について、「見直しが必要」や「廃止検討」とされた事業はもとより、「継続実施」とされた事業についても、より一層の効果を上げるための手法等について見直すこと。